

# 平成29年度 学校自己評価システムシート (県立熊谷商業高等学校)

目指す学校像	歴史と伝統を受け継ぐとともに、先進的なビジネス教育を融合させ、地域社会をリードする人材を育成する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>開かれた学校づくりをととして地域との連携を推進し、意欲と適性のある生徒募集に組織的に取り組む。</li> <li>基礎・基本を重視したきめ細やかな「わかる授業」を推進し、学習意欲を高め基礎学力の向上に取り組む。</li> <li>基本的な生活習慣の確立と、生徒の自主的な活動の習慣化に取り組む。</li> <li>生徒の進路希望実現に対応した、継続的・体系的な進路指導に取り組む。</li> </ol>
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	2名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 2 8 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	・組織的かつ計画的な広報活動等を実施し、今年度も入学生について募集人員を満たすことができた。県北部地域の中学生数が減少傾向の中、中学生や保護者が本校に求めているものを的確に把握し、よりニーズに応えた魅力ある学校にする必要がある。また、地域連携や情報発信等を一層充実させ、より高い目的意識と意欲のある入学志願者を確保することが課題である。	意欲と目的意識の高い入学志願者の確保	<ol style="list-style-type: none"> <li>本校主催の学校説明会や体験入学等を計画的に実施するとともに、中学校や外部団体等主催の高校説明会へ積極的に参加する。</li> <li>特に学校説明会において、在校生の言葉で伝えるなど、中学生や保護者に親しみのある情報発信を行う。</li> <li>部活動による中高連携や地域連携を一層推進する。</li> <li>学校案内の改訂や学校ホームページの随時更新や熊商ジャーナルの発行による、積極的な情報発信を行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>計画どおりに本校主催の学校説明会や体験入学等を実施したか。</li> <li>在校生参加型の学校説明会や中学生や保護者に親しみのある情報発信ができたか。</li> <li>部活動による中高連携や地域連携を実施したか。</li> <li>学校ホームページの随時更新や熊商ジャーナルの発行など、積極的な情報発信を行ったか。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒募集において、定員確保を目標に広報活動を実施したが、普通科志向や生徒数の減少ともない、大変困難な状態がここ数年続いている。</li> <li>① 計画どおりに本校主催の学校説明会や体験入学を実施した。外部団体主催等の説明会にも積極的に参加し、生徒募集につながる広報活動を展開した。</li> <li>② 在校生が参加し、学校生活の体験発表等を取り入れた学校説明会を実施した。商業高校の特色や楽しさ等を伝え、中学生や保護者から一定の評価をいただいた。</li> <li>③ 運動部による熊商杯の開催や文化部による地域イベントへの参加など、地域交流を積極的に行った。</li> <li>④ 学校ホームページの随時更新や熊商ジャーナルの定期発行等、積極的な情報発信を行った。</li> </ul>	A
2	・生徒一人一人がより高い目標を持ち、日々落ち着いた環境のもと、真面目に授業に取り組んでいる。学力に幅があり、基礎学力の定着が課題である。達成感や成就感を味わわせる、生徒主体の授業に一層取り組むことが必要である。	学習習慣の確立と学力向上	<ol style="list-style-type: none"> <li>「朝学習」に継続的に取り組み、学習習慣の定着を図る。</li> <li>生徒にわかる授業、生徒参加型の授業により「学力向上」を実現する。</li> <li>各種検定と補習等への取り組みにより、生徒一人一人の学力向上と各種検定等の目標を達成させる。</li> <li>力のある生徒には、より上位の資格にも挑戦させる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学年ごとに計画的に、「朝学習」に取り組めたか。</li> <li>生徒アンケート等で、授業への満足度が得られたか。また、ICT活用などの取組ができたか。</li> <li>生徒各自が検定合格等の目標を達成したか。</li> <li>日商簿記検定や情報処理技術者試験等の高度な資格取得が実現したか。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得に向けた専門知識の習得を目標に学習指導に取り組んだが、一部の生徒に基礎学力の不足が目立ち、なかなか結果に結びつかなかった。</li> <li>① 学習習慣の定着と基礎学力を身に付けさせることを目的に、学年ごとに年間をととして「朝学習」を実施した。</li> <li>② 生徒にわかる授業、生徒参加型の授業を展開し、理解度の向上に努めた。資格取得等をととして、生徒一人一人に達成感・成就感を味わわせた。</li> <li>③ 継続的な学習指導や計画的な補習等への取り組みにより、生徒一人一人に目標(資格取得)を達成させた。</li> <li>④ 高大連携における高度資格取得講座を活用し、日商簿記検定や情報処理技術者試験等の高度資格取得者を出した。</li> </ul>	B
3	・多くの生徒が規範意識をもち、基本的な生活習慣が確立している。挨拶や身だしなみなど、地域からの評判も高く、より一層の活躍を期待されている。特に部活動や学校行事に積極的に参加し、充実した高校生活を送っている。卒業後、社会人として「即戦力」として通用する基礎的素養をしっかりと身につけさせることが課題である。	生徒のより一層の自主性と規範意識の向上を育成する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>各学年において、計画的に「道德教育」(在り方生き方教育)をする。</li> <li>ネットトラブル、携帯電話等の指導をさらに強化し、問題発生を未然に防止する。</li> <li>遅刻・欠席者を減少させる。</li> <li>外部指導者を活用して、各部活動の技術向上を図る。</li> <li>大会実績や地域交流など、各部活動の活躍を積極的に情報発信する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>各学年で、計画的に道德教育(在り方生き方教育)に取り組んだか。</li> <li>ネットトラブル等を防止できたか。</li> <li>遅刻・欠席者は減少したか。</li> <li>外部指導者を活用し、また、部活動の実績をあげられたか。</li> <li>部活動の活躍等を情報発信できたか。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>規範意識の醸成を達成するため、学年を中心に計画どおり指導を行った。今後も継続的な指導が必要である。</li> <li>① 学年において、計画的に「道德教育」(在り方生き方教育)を実施し、規範意識の醸成等を図った。</li> <li>② 携帯電話やスマートフォンを利用するうえでのマナーやルールを十分に理解しきれておらず、事故につながるような問題が発生した。</li> <li>③ 毎朝の登校指導や「朝学習」への取組の結果、遅刻・欠席者を減少させた。</li> <li>④ 継続的な練習や外部指導者等の専門的指導により、生徒一人一人に技術的、人間的成長が見られた。</li> <li>⑤ 「熊商ジャーナル」や各種イベントへの参加等で、大会実績や地域交流など、各部活動の活躍を積極的に情報発信した。</li> </ul>	B
4	・ここ数年、進学・就職において進路実現率100%を達成している。今後は、四年制大学への進学増加や公務員、優良企業等への就職など、一層高い進路目標の実現が課題である。	生徒個々の実力養成を行い、生徒の第一希望の進路を実現する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、2年生の進路ガイダンスを充実させ早期から高い進路意識をもたせる。また、保護者への参加を促し、学校・家庭との「連携型進路指導」体制を構築する。</li> <li>公務員や看護など進路希望に応じた学習会を計画的に行う。</li> <li>管理職や学年、進路指導部による企業訪問を実施し、優良な就職先を確保する。</li> <li>大学との連携を強め、進学者を増加させる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>進路意識向上を目指した進路ガイダンスを計画どおり実施し、保護者の参加は得られたか。</li> <li>公務員や看護など希望に応じた結果が得られたか。</li> <li>管理職や学年、進路指導部による企業訪問を実施したか。</li> <li>大学への進学者が増加したか。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職希望者が年々減少し、大学を中心とした進学希望者が増加している。生徒の進路希望にあった、指導を実施した。</li> <li>① 1、2年生向けの進路ガイダンスを早期に実施することで、進路意識の向上を実現した。保護者への参加を積極的に促したが、学校・家庭との「連携型進路指導」体制の構築までには、至らなかった。</li> <li>② 公務員や看護など進路希望に応じた学習会を年間をととして計画的に実施した。</li> <li>③ 管理職や学年、進路指導部員による企業訪問を実施し、優良な就職先を継続的に確保した。</li> <li>④ 大学への進学者は、前年度比増加した。</li> </ul>	A

学校関係者評価	実施日 平成30年 3月16日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒募集については、工夫を凝らした学校説明会等を実施している。中学生減少傾向の中、継続的に情報発信を行ってほしい。</li> <li>・中学2年生にとっては、進路決定まで時間がある。そのタイミングで、専門高校の特色をアピールすることも、生徒募集に有効かもしれない。</li> <li>・部活動においては、中学生に技術指導や大会(熊商杯)を実施し、地域連携が十分に図られている。また、熊商ジャーナルやホームページ等での情報発信が十分に行われている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得を実現するため、計画的な補習等が実施されている。ここ数年伸び悩みの部分もやや見られるが、高度資格取得の合格者も輩出しており、指導の成果が現れている。「朝学習」をもっと効率的に活用したらどうか。</li> <li>・資格取得の実績や卒業後の進路に関する情報発信を、継続的かつ積極的に行う必要がある。</li> <li>・丁寧な授業もあるが、進度がはやく生徒の理解が得られていない部分が見られる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットトラブルが多発しているなか、生徒だけでなく、保護者への注意喚起も必要である。情報モラルを懇切丁寧に行い、事故防止に努める必要がある。</li> <li>・交通ルールを順守している生徒が見られる。熊商だけでなく、市内の県立高校でも同じ状況だが、危険な自転車の並列走行、イヤホンや傘さし運転等の交通事故につながるような生徒も見られる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年に、公務員希望者がいる。ここ数年合格者が減少傾向にあるため学習会の工夫を考えている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四年生大学等の進学者が増加傾向にあるが、公務員の合格者はここ数年減少している。定期的に実施している学習会等を工夫し、合格者輩出に結び付けてほしい。</li> <li>・学校行事等で過密スケジュールの中、計画的な就職・進学ガイダンスや企業・大学見学会等を実施し、早期から進路意識の向上に努めてほしい。</li> </ul>

